西日本サイディング・News
2026年（令和8年）10月1日（第214号）

発行
西日本サイディング事業協同組合
事務局
〒542-0081 大阪市中央区南船場2-10-28
Tria心斎橋（旧NKビル）6F
TEL 06-6121-7302
FAX 06-6121-7303
URL:https://www.siding.jp/west/

2026年、住宅・建設業界はどこへ向かうのか

単一工事から、住宅性能全体を考えた工事へ

新設住宅着工戸数の減少、省エネ改修への関心の高まり、人手不足を背景とした現場のDX化など、住宅・建設業界を取り巻く環境は大きく変化している。このような変化を2026年の業界の現在地としてとらえ、外壁工事業が今後どのような視点や方向性で住宅づくりに取り組んでいくべきかを考える。

1．新築から既存住宅へ――「建てる」から「改修する」へ

まず大きな変化の一つが、「新築から既存住宅の活用」である。2026年上半期の新設住宅着工戸数は前年同月を大きく上回る月が見られるものの、野村総合研究所の予測では2026年以降も長期的に減少していくという見通しだ。一方で、既存住宅の省エネ改修は、2025年度までに約3,000万戸で必要になると試算されている。

従って、今後の住宅市場はいかに既存住宅を改修していくかという視点がより重要となる。

2．住宅の省エネ・高性能化に向け、他工事との組み合わせを

続いて、住宅の省エネ・高性能化も顕著な流れだ。国交省・経産省・環境省の連携で行われている「住宅省エネ2026キャンペーン」は、新築とリフォームを対象とする四つの補助事業で家庭部門の省エネ化を促進する国家プロジェクト。そのうちの一つ、「みらいエコ住宅2026事業」では、床・壁・天井などの躯体の断熱改修を含む幅広いリフォームが対象となっている。

サイディングをはじめとする外装工事では、住宅の省エネ性能を高めるために、外壁と「窓」「屋根」「設備」など複数部位の工事が絡み合うが、同制度はそのような複合的なリフォームを支援する仕組みになっている。

施工業者としてこうした補助制度にアンテナを伸ばし、適切に活用することで、外壁だけでなく「いかにして住宅全体を省エネ・高性能化するか」という視点で顧客への新たな提案につなげていきたい。

3．建設DXには、AI導入だけでなく「データ連携」が必要

3点目として、建設DXによる現場の働き方の進化が挙げられる。国交省が公開した2026年7月の建設労働需給調査では、全国8職種の労働者過不足率は1．2％の不足となっている。また現在、建設技能者の約1／4を60歳以上が占め、29歳以下がわずか12％と、担い手の確保は依然として大きな課題だ。そこで国交省はICTやAIを活用して建設現場のオートメーション化により生産性向上を図る「I-Construction 2．0」（P3参照）という施策を進めている。

建設業のDXは、単にAIを導入するだけでなく、各工程をどうスムーズにつなげるかを考えることが重要である。各工程で異なるシステムやデータを使用していれば、一つの工程だけをデジタル化しても、結局その前後で手作業が発生してしまうからだ。例えばサイディング工事においては、図面、材料、数量、施工情報、写真撮影、検査記録などが連携して統一的なシステムで動けば、現場の負担はかなり軽減されるだろう。

4．外壁工事の「その先」へ――これからの提案型施工

1「新築から既存住宅の活用へ」、2「住宅の省エネ・高性能化」、3「建設DX」という三つの変化から、外壁工事業における一つの方向性が見えてくる。「単一の工事」から「住宅全体を考えた提案」へという流れだ。既存住宅のリフォーム市場に目を向け、外壁の張り替えという単一の工事から住宅全体の性能を高めるための複合的リフォームを提案し、外壁工事だけでなく前後の工程を担う事業者と連携したDX化を図る――このような方向性で考えることで、外壁工事業者が今後新たな受注や事業領域拡大につなげていく可能性は大いに高まる。

当然、全事業者新分野へ進出する必要があるわけではない。例えば自社が外壁工事を得意としていれば、それを軸に、どんな工事と組み合わせれば、より高性能な住宅を実現できるかを考え、必要に応じて他工種の事業者と連携するわけである。

新築から既存住宅へ。単一性能から住宅全体の性能へ。単独作業からデータ連携へ。このような変化の先に、今後の外装工事業の新しい役割を見いだしていくことがわれわれにとって必要となろう。

組合員インタビュー

将来の業界を担う職人育成を目指す

社名に込めた「選ばれる施工力」が最大の強み

株式会社プリファードテック　代表取締役　橋本典明氏

昨年当組合に加入した(株)プリファードテックは、広島市内で住宅外部工事を手掛ける施工会社だ。株式会社化して4年目の若い企業ながら、職人の技術力とビジネス力を武器に県内ナンバーワンを目指して成長中である。代表取締役の橋本典明氏に、職人育成の狙いや選ばれる理由、将来の展望などを聞いた。

起業までの経緯をお聞かせください。

大学卒業後しばらくは、全く別の業界で働いていたのですが、外装工事業を営む親類の会社に誘われたのがきっかけでこの世界に入りました。そこで職人として経験を積むうちに、建築業界の現場は学歴や経歴が障壁とならない、裾野の広い業界であることに気付き、それなりに頑張れば高いポジションに達することができると思いました。こうしてこの仕事を生業にしようと決心し、独立したのが2018年、33歳のときでした。一人親方として、それまでお世話になった得意先からの手間請けで外装やリフォームを手掛けるようになりました。

株式会社設立の背景は？

独立から4年後の2022年、株式会社化を実現しました。これは、職人の人材育成にしっかり取り組んでいきたいと考えたからです。今、業界全体が後継者不足に悩んでおり、将来の危機が目に見えています。職人のボリュームゾーンはずっと団塊ジュニアのままで、現在は50代前半になっています。10年後に彼らが引退すればどうなるかを考えると、人材育成は喫緊の社会課題であることは間違いないでしょう。手間請けの個人事業では質の高い人材確保・育成に限界がありました。これが法人化に踏み切った大きな理由の一つです。

これまでどんな苦労や困難がありましたか？

やはり独立したばかりの頃は大変でした。一人親方の状態では追い切れない現場があったり、物理的に手が足りなくて工期に合わせるのに苦労したり。そんな時は他チームに助っ人を頼むなどしてしのいでおりました。

現在、まだ法人化から実質4年なので、人材確保や育成は準備段階ですが、現状は専属の一人親方5組程度の協力を得て現場をこなしています。サイディングはじめ住宅外皮全般を手掛けていますが、屋根工事は約2年前に始めたばかりで、今まさに伸長中です。

将来的には、職人40組体制で、売り上げ10億円達成を目標にしています。40組の半分は正社員として雇用。欲を言えば10年後には実現し、ゆくゆくは広島県でナンバーワンを目指したいですね。

選ばれてきた理由や強みは？

実は私、取引先の工務店に「なぜ当社を選んでくださっているのですか?」と直接たずねたことがありまして。いろいろ聞いてみると、職人の対応力が評価されているようでした。施工技術は当然のこととして、それに加えて現場での提案力や交渉力を個々の職人がしっかり持っている、と。確かに当社の職人は、お客様と積極的に対話してイメージを共有できるビジネス力に長けており、これは大きな強みだと思います。私は今後、こうしたビジネス力のある職人を育成していきたいと考えています。現場施工も全体の段取りも、営業もできる、従来のブルーカラーのイメージを変えるような職人です。

施工技術についてはどのような強みが？

時代に合った技術で最適な加工ができることだと思います。サイディング工事は比較的最近の工法ではありますが、直貼りの時代を経て通気工法になり……と変遷してきており、メーカーさんからも新たな建材や副資材が次々と出されています。お客様から「この新しい部材を使ってほしい」と依頼されたときに、いかにマッチした施工方法で、いかに垢抜けた納まりで仕上げるか、日々知識をアップデートしながら技術力の向上に努めています。

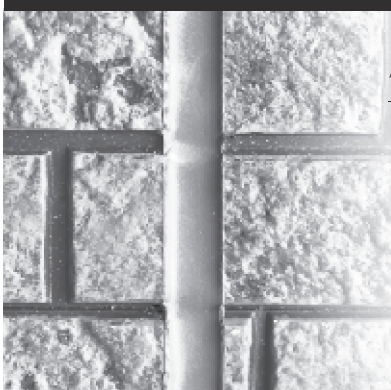
社名のプリファードテック（Preferred tech）は「選ばれる技術」を意味します。テックはテクノロジーではなく「テクニック」を指し、施工力を強調。時代に合った施工力と職人の総合力、まさにこれが“選ばれる”理由ではないかと自身では考えております。

組合の一員として、最も意識する課題は？

2025年に日本サイディング協会に加入したのがきっかけで仲本理事長にお声がけいただき、当組合に加入した次第です。私の課題意識も皆様と同じ、職人の社会的地位向上であり、そのために次世代の職人育成に心血を注いでいくつもりです。

外壁用シーリング材「性能新時代」の幕開け。 オートンイクシード

EXCEED Technology



厳しい環境をクリアする新技術「ＬＳポリマー」

高耐久化する住宅外壁に合わせ、専用ポリマーの設計からスタート。
厳しい基準をクリアし、高耐久型樹脂「ＬＳポリマー」が誕生。

「ＬＳポリマー」を採用し、開発されたシーリング材が「オートンイクシード」これまでの外壁用シーリング材の耐久性レベルを飛躍的に向上させることに成功しました。

※屋外暴露試験場（宮古島）での耐候性試験

オート化学工業株式会社 http://www.autochem.co.jp
大阪支店 大阪府吹田市南金田2-18-23 TEL.06-6821-8011 FAX.06-6821-8010
本　社 東京都台東区上野5-8-5 CP10ビル5階
東京支店 TEL.03-5812-7310 FAX.03-5812-7950

TOPIX

住団連が2026年の新ビジョン策定
基本方針の中核は「住宅ストックの活用」

（一社）住宅生産団体連合会（住団連）は9月2日、中長期指針「住生活産業ビジョンVer.2026」を策定した。人口減少や空き家増加、脱炭素化、担い手不足などを踏まえ、良質な住宅ストックの形成や既存住宅流通の活性化、住宅資産価値の適正評価などを柱に据えたものだ。

同ビジョンは、「Ⅰ：良質な住宅ストックの形成」「Ⅱ：良質な住宅を選択できる社会の実現」「Ⅲ：カーボンニュートラルの推進」「Ⅳ：住生活産業の魅力向上と生産性改革」「Ⅴ：住生活リテラシーの向上」の五つを基本方針とし、多様なライフスタイルやライフステージなどに対応した質の高い住生活の実現を目指す。

ビジョンの中核をなすのがⅠでうたわれる住宅ストックの活用。性能向上リフォーム、既存住宅流通の活性化を進め、市場を通じて住宅の循環を形成する。耐震性や省エネ性能に課題を抱える住宅が多数存在するため、「良質な住宅への建て替え」と「性能向上リフォーム」を両輪で進める必要があるとしている。

資産として住み継がれる良質ストック形成のためには、既存住宅の流通環境の整備や、資産価値を適正に評価する新しい住宅査定方法の確立、新しい住宅金融商品の深化などが国の政策として期待されている。

実は知らない!? 用語辞典 Vol.19

『I-Construction 2.0』
建設現場のDX+自動化 2024年度までに生産性1.5倍へ

「I-Construction 2.0」（アイ・コンストラクション・ツー）は、国交省が進める「建設現場をもっとラクに、安全に、少ない人数で動かそう」という取り組み。例えば建設機械の遠隔操作、自動化、3DデータやAIの導入による作業・管理の効率化などがある。ペーパーレス化や、現場に行かずとも遠隔による検査・管理を可能にすることも含まれる。

背景には建設業の人手不足がある。国交省は2040年度までに、建設現場の省人化3割、生産性1.5倍を目指す。簡単に言うなら、「人が頑張るだけの建設」から「機械・AI・デジタル技術も一緒に働く建設」へ変えていこうという計画である。

今日つれづれ

神戸 睦史〈ハウゼコ〉

盆休みに中国の西安と北京に行ってきた。

西安は秦、漢、隋、唐など13の王朝の都として、またシルクロードの起点として栄えた。シルクロードは、当初西安からシリアまでだったが、のちにローマから日本の東大寺まで伸びている。

中国の歴代王朝の中で漢民族が皇帝になった王朝は意外と少ない。AIに尋ねると、漢・晋・隋・唐・宋・明の6つと出てくるが、現地の中国人に聞くと、唐の皇帝は北方騎馬民族の鮮卑族の出身だという認識で、そう考えると、5つということになる。

7世紀、唐の時代に、玄奘三蔵法師がサンスクリット語の経典を西安の大慈恩寺に持ち帰り、同師が没する664年に翻訳を終えた。その40年後の703年には、早くもその経典が薬師寺に伝来している。玄奘三蔵法師は、法相宗の開祖だが、日本で建立されている法相宗の寺院は、興福寺と薬師寺だけなので、日本仏教の重要な源流の一つとなった寺といえる。

同じ時期に阿倍仲麻呂は、唐の高官として生涯をささげ、唐の高僧・鑑真は日本に渡り東大寺や唐招提寺の建立に尽力した。遣唐使として西安に渡った空海と最澄は多くの経典を日本に持ち帰り仏教伝来に貢献した。

当時の唐は、中国の王朝とユーラシアの遊牧諸民族の双方から認められた盟主の称号、初めての「天可汗（てんかがん）」として両地域を統治。皇帝が鮮卑族の出自であったこともあり、多様な文化が交錯するコスモポリタンな街として栄えていたようだ。

そこには、ユーラシア各地との交流を通じて、宗教や文化が政治・外交に果たす役割についても、さまざまな情報が集まっていたのだろう。そうした国際的な環境にあった唐だからこそ、日本との関係を築くうえでも、宗教や文化の違いを越えて交流することを重視し、日本への仏教伝来についても寛容だったのかもしれない。

秦の始皇帝陵で有名な西安だが、仏教伝来の足跡をたどる旅としても楽しめた。

NEW!

気密防水・配管・仮止シートの目張・貫通部

のびて止まる 3次元用粘着テープ スパンエースG

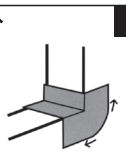
縦にも横にものびて被着体にフィットする
スリット入剥離紙付 片面テープ

仕様	基材	新開発特殊フィルム灰色（Pe/Ps不織布）
	粘着剤	アクリル系粘着剤
	剥離紙	スリット入り片面剥離紙付
	スリット位置	センター or 1/3
	幅	45mm / 90mm
	長さ	5m
	入り数	16巻 / 8巻

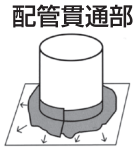
■ 特徴
- アクリル系粘着剤使用で高耐久性
- ホルムアルデヒド・トルエン等不使用
- 粗面にも安心強粘着、重ね貼りもOK

施工例

窓台部分
90mm幅 センタースリットタイプがおすすめです



配管貫通部
45mm幅 1/3スリットタイプがおすすめです



光洋化学株式会社
http://www.koyo-kagaku.co.jp

大阪営業所
〒530-0036 大阪市北区与力町4-8 末広センタービル4F
TEL 06-6353-3171 FAX 06-6353-3513

組合だより

役員会・情報交換会のご報告（8月）

日時　8月26日(水)15：15～17：30
場所　ハウゼコ会議室＋Ｚｏｏｍによるハイブリッド

□役員会
○今後の役員会・情報交換会の開催形式について、4月、8月、12月のみハイブリッド、他の月はＺｏｏｍ開催とする。
○インスタ施策について、予算含め提案内容で検討を進める。
○12月16日(水)開催の忘年会について、難波御堂筋ホール　ホール９Ｂでの役員会終了後、がんこ道頓堀店へ移動することを決定。
○全国サイディング事業協同組合連合会執行部会での決定事項報告
・事務局の増員
・連合会「3つの柱」の発表
・連合会「標準見積書 簡易版 2026」の紹介
○サイディングニュース10月号の内容検討
・巻頭記事「2026年、住宅・建設業界はどこへ向かうのか」、P2の組合員紹介にプリファードテック、P3にトレンド情報を掲載
□情報交換会　各社近況報告、新入会員紹介およびプレゼンテーション

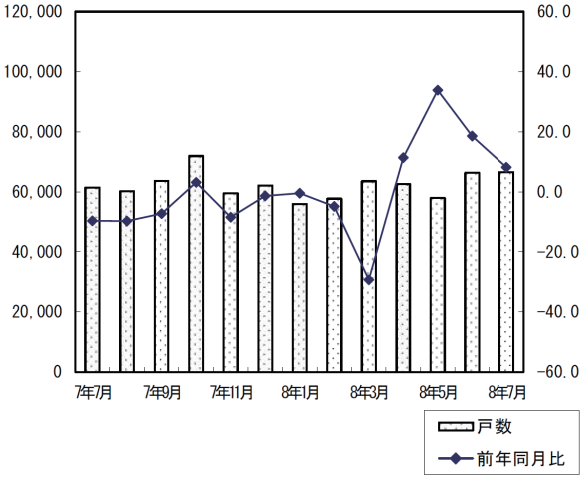
今後の予定

役員会・広報部会・情報交換会
日時　10月30日(金)15：15～
場所　Ｚｏｏｍによるオンライン会議

役員会・情報交換会・忘年会
日時　12月16日(水)15：15～
場所　難波御堂筋ホール　ホール９Ｂ、がんこ道頓堀店

建築物着工統計（令和８年７月分）

７月の新設住宅着工は、持家、貸家、分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比８．２％の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比1.6％の減少となった。



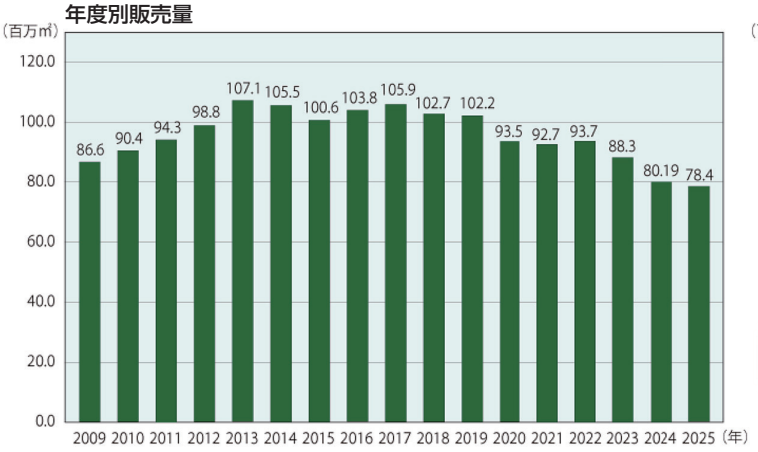
新設住宅総括表

		戸数			床面積の合計		
		戸	対前月比(%)	対前年同月比(%)	千平方メートル	対前月比(%)	対前年同月比(%)
新設住宅計		66,439	0.1	8.2	5,115	1.2	8.1
建主別	公共	984	△6.0	48.6	56	△5.8	42.5
	民間	65,455	0.2	7.8	5,059	1.3	7.8
利用関係別	持家	17,730	△4.4	0.4	1,978	△5.2	△0.1
	貸家	30,164	△0.3	10.0	1,427	0.7	7.6
	給与住宅	337	3.1	△24.4	26	△4.0	△4.9
	分譲住宅	18,208	5.8	14.6	1,684	10.7	20.3
資金別	民間資金	61,168	1.2	9.5	4,694	2.4	9.3
	公的資金	5,271	△10.6	△4.6	421	△9.9	△4.0
	公営住宅	975	78.9	55.5	55	66.4	48.8
	住宅金融機構融資住宅	1,201	△12.5	△19.0	118	△8.8	△16.4
	都市再生機構賃貸住宅	0	△100.0	－	0	△100.0	－
	その他の住宅	3,095	△11.7	△0.4	249	△11.6	△4.7
構造別	木造	39,547	0.4	6.8	3,405	△2.0	5.1
	非木造	26,892	△0.2	10.3	1,710	8.4	14.4
	鉄骨鉄筋コンクリート造	176	△20.4	6.0	10	△32.9	△22.1
	鉄筋コンクリート造	18,165	2.2	16.3	1,118	18.7	28.2
	鉄骨造	8,511	△4.6	△0.4	580	△6.4	△4.4
	コンクリートブロック造	28	180.0	△33.3	2	69.2	△40.7
	その他	12	33.3	50.0	1	△40.9	35.5

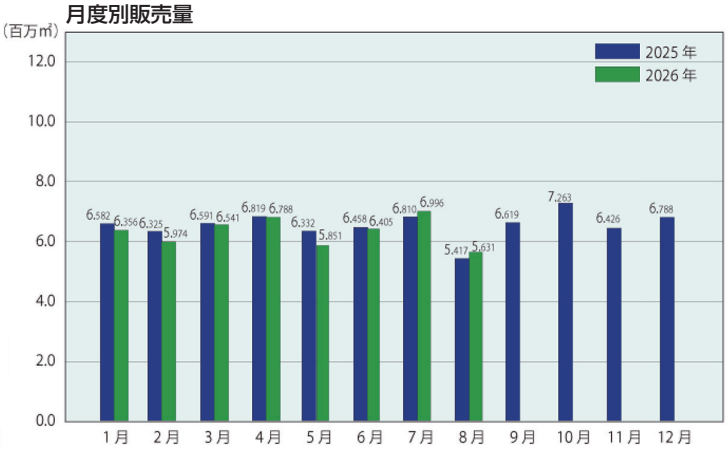
※国土交通省 建築着工統計（令和8年8月31日発行）より
http://www.mlit.go.jp/report

窯業系サイディング販売量

年度別販売量



月度別販売量



日本窯業外装材協会

50年以上の屋根を目指して 通気立平 デネブエアルーフ
DENEB AIRROOF
hauseco
株式会社ハウゼコ　〒542-0081　大阪市中央区南船場 2-10-28　NK ビル 6F　Tel 06-4963-8266　Fax06-4963-8267　hauseco.jp